

無償資金協力に係る事後評価票

(注)本案件は外務省評価案件であり、外務省による一次評価を踏まえ外部有識者による二次評価を実施していますので、評価項目ごとの二次評価結果を追記しています。
二次評価の概要については、外務省ホームページに掲載されている無償資金協力におけるプロジェクト・レベル事後評価報告書(平成20年度)をご参照下さい。

担当公館名：在タンザニア日本国大使館	
国名：タンザニア	案件名：ムワンザ市キルンバ魚市場建設計画
E/N署名日：2003年11月28日	供与限度額：6.24億円
先方実施機関：天然資源観光省	完工日：2005年3月8日
他の関連協力：なし	
1. 案件の目的 (B/D時の目標・想定効果を記載)	<p>タンザニア北部に面するビクトリア湖は、アフリカ大陸最大の湖であり、同国の内水面総漁獲量の約50%を担っている。キルンバ市場はビクトリア湖の交易の中心的都市であるムワンザ市にあり、ビクトリア湖で漁獲される水産物の集散地となっている。特に主要漁獲物の一つであり、国内および周辺国で消費されているダガー(コイ科の小魚)の乾物は、9割以上がキルンバ市場を経由して流通している。</p> <p>しかしながらキルンバ市場には適切な陸揚施設がないため、ビクトリア湖畔に点在する漁村から集まるダガーの乾物等は、袋詰めされたものを労働者が浅瀬の船から担ぎ揚げ、そのままの状態市場内の砂浜に運び込まれていた。また、キルンバ市場の荷捌き場は露天状態であるため、雨天時には市場が開けず流通が滞り経済的な損失が発生していた。さらには、乾物等の商品が濡れることによるカビや害虫の発生が商品価値の低下を招いていた。</p> <p>本案件は、魚市場内の施設を整備することにより、流通活動の効率化と活性化を図るとともに、流通過程で発生する漁獲後の損失の低減を図ることを目的としている。</p>
2. 案件の内容	<p>魚市場施設及び陸揚げ施設、加工作業施設、食堂施設の整備。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 魚市場棟建設 ・ 給水設備、電気設備の建設 ・ 場内道路、外溝等の魚市場施設の建設 ・ 浮棧橋、連絡橋、渡棧橋の陸揚げ施設の建設 ・ 加工活動支援施設の建設 ・ 食堂の建設等
3. 案件の妥当性	<p>全般的評価：B+ (外部有識者による二次評価：B+)</p> <p>以下に合致しており、案件の妥当性は十分であると判断される。</p> <p>① 被援助国により策定された開発戦略</p> <p>タンザニア政府が策定した「政府開発ビジョン」、「国家貧困削減戦略：NPES」では、2010年を目途とする貧困撲滅と農業分野の開発を重要課題と定め、特に食糧安全保障を貧困削減に直接貢献する分野として、その開発に重点を置いている。また、水産分野の開発計画として同政府は「国家水産分野政策・戦略1997」を策定し、「水産資源の保護及び有効な開発によって、現在及び将来の国民へ持続的な便益を</p>

	<p>もたらずこと」を水産開発の最終目標としている。</p> <p>② 現地でのニーズ</p> <p>キルンバ市場は降雨による年間約 120 回の市場作業の中断及び 30 日以上の市場閉鎖を余儀なくされていた。市場の流通効率の向上、流通製品の品質の確保等の観点から、当該市場設備の整備に関する現地のニーズは高い。</p>
<p>4. 施設／機材の適切性・効率性</p>	<p>全般的評価：A－（外部有識者による二次評価:A－）</p> <p>施設は十分に活用されており、施設規模、設置施設及び供与機材等は概ね適切であったと判断される。</p> <p>また、基本設計段階では予測できなかったことであるが、ビクトリア湖の水位の経年的な低下によって、本案件で設置した浮き棧橋が湖底に接触し底部が破損する可能性が危惧されている（2008 年 4 月時点で、ビクトリア湖の水位は完成時の水位から 45 センチほど下がっていることが確認されている）。このため、浮き棧橋の長さを延長するために、同棧橋を支えている支柱を移動させるなどの対策を検討する必要性が生じている。自然条件に影響を受けるこのような構造物については、将来的に必要なに応じて沖に棧橋を移す等の対応を行うことが求められる。</p>
<p>5. 効果の発現状況（有効性）</p>	<p>全般的評価：A（外部有識者による二次評価:A）</p> <p>本案件の実施により、キルンバ市場における水産物等の陸揚作業の安全化・効率化が図られ、また、降雨による作業の中断・停止が改善されることにより市場流通の安定化が図られた。他方、ダガーの乾物等の品質低下を防ぐことにより、漁民の収入向上およびタンザニア国内や周辺国への良質な製品の供給が可能となった。</p> <p>ムワンザ市の調査によれば、漁獲物取扱量は、基本設計時に想定した計画取扱量の 3 倍強（約 3.6 万トン／年）が取り扱われており、本市場から得られるムワンザ市の収益は月間 5 千万シリング（約 500 万円）にも上がっている。</p>
<p>6. インパクト（上位目標への影響等）</p>	<p>全般的評価：A（外部有識者による二次評価:A）</p> <p>本案件の実施前、漁獲後の品質劣化による損失量はダガーの年間取扱量の約 10%に相当する約 1 千トンであったが、本案件の実施により当該損失は概ね回避され、限られた漁業資源の有効活用が可能となった。本案件は貧困層の約 80%を占める農村部生活者に対する安価な蛋白質供給による栄養改善に少なからず寄与し、タンザニア政府が定める上位目標である貧困削減に対し肯定的な影響を及ぼしたと判断される。また、同市場の活性化により、同市場周辺に銀行の支店が開設されるとともに、SACCOS（農協的な金融機能を持つ組合）がいくつも立ち上がるなど、地域経済への肯定的な影響が見受けられる。</p>

<p>7. 自立発展性・さらなる改善の余地 (改善の余地がある点については以下に記入)</p>	<p>全般的評価：A+ (外部有識者による二次評価:A)</p> <p>施設の維持管理はムワンザ市によって適切に行われており自立発展性が期待できる。魚市場の収益は管理者であるムワンザ市が外部企業に委託し施設利用者から徴収している。これら収益は同市の口座に入金される。同収益は2006年時点では市の一般会計歳入として予算措置されていたことから、当該施設の維持管理予算の支出には個別支出項目毎に決済が必要になる等、硬直的な予算執行システムとなっていた。現在、ムワンザ市は同市の行政組織内に同市場のマネージメントに係るユニットを設置し、同ユニット用に個別の口座を開設している。同口座にはムワンザ市から毎月約600万シリング(約60万円)が支出され、これにより円滑に市場の維持管理が行われている。このように、管理者であるムワンザ市が同市場の維持管理を効率的に行えるシステムを構築しており、管理者による自主努力が確認されている。</p>
<p>8. 広報効果(ビジビリティー)</p>	<p>全般的評価：A+ (外部有識者による二次評価:A-)</p> <p>キルンバ市場の東門入り口の外壁には、本件事業の銘板が設置されており、本件が日本からの資金援助によって実施された旨記載されている。当該銘板は市場内の卸売り等の従事者約550人、労働者約2千人、一日当たりの市場利用者約2千人に対する広報効果がある。また、2004年7月に行われた起工式典には、タンザニア政府からメグジ天然資源・観光大臣、同省次官、ムワンザ州知事等多数の政府関係者の出席があり、周辺住民約2千人が同式典に参加した。メグジ大臣からは日本政府の支援に深い感謝の意を示す発言がなされた。一方、ダガー等の水産加工物は、タンザニア国内はもとより、ケニア、コンゴ(民)、ブルンジ、ルワンダ、マラウィ等にも輸出されており、本案件はこれらビクトリア湖周辺国にも十分認識されている。</p>
<p>9. 被援助国による評価 (外交的効果についても、本欄に記述する)</p>	<p>本案件は、市場付近の経済活性化という効果も発現しており、タンザニア政府及びムワンザ市、住民から高い評価を得ている。また、周辺国からの評価を踏まえて、2008年3月にタンザニア政府の東アフリカ共同体(EAC)担当副大臣が当該市場を訪問しており、その際、本件に係る日本の協力に対し謝意を述べている。</p>
<p>10. 提言・教訓</p>	<p>本案件の実施により、漁民の収入向上およびタンザニア国内や周辺国への良質な製品の供給が可能となっており、本案件による市場の改修事業は効果の高い協力であったと言える。</p> <p>他方、ビクトリア湖の水位低下という自然条件の変化が棧橋施設の継続的利用の不安要因となっており、今後同じようなタイプの協力をする際は本案件の教訓として自然条件に影響を受ける構造物については、必要に応じ先方負担による沖側への移動を働きかけていくことが重要である。</p>



キルンバ魚市場（屋根の布設及び床面を舗装した市場施設）



キルンバ魚市場（浮き棧橋及び連絡橋）